

2173再構築 18

5ゲブラー：カ

エリー

本文

5 ゲブラー:力

<調べた言葉>

ちから〔力〕

肉体的な力

意志の力

せいぎょ〔制御〕

もくてき〔目的〕

ほうこう〔方向〕

せいじ〔政治〕

けいざい〔経済〕

じゅんすい〔純粹〕

じゃねん〔邪念〕

しよく〔私欲〕

ふじゅん〔不純〕

じゅんしん〔純真〕

ああ、ある意味わたしは邪念がなくて純真だわ。まず全体を考えるもの。

むじゅん〔矛盾〕

つじつま〔辻褄〕

辻褄が合う

じかどうちゃく〔自家撞着〕

りょうりつ〔兩立〕

あまい〔甘い〕

甘い汁を吸う

あまやかす〔甘やかす〕

accuse

blame

attribute

ひなん〔非難〕
せめる〔責める〕
せきにん〔責任〕
けっか〔結果〕
げんいん〔原因〕

じこべんご〔自己弁護〕
せいとうせい〔正当性〕
しゅちょう〔主張〕
ついきゅう〔追及〕

よわい〔弱い〕

力というと、腕力と意志に大きく分けることができる。
石を持ち上げる力がなければ、動かすことはできない。
しかし、「この石を動かそう」という意志がなければ、そもそもやろうと思わないので、できてもしない。

目的を持って、思い通りに石を並べたら、崩れない丈夫な石垣ができるかもしれない。
そう考えると、「腕力 < 意志 < 制御」という関係が成り立つ。
つまり、制御する力を持つ人が、一番強いということになる。

娘は、すぐに人のせいにして、脅したり、自滅の道だと思ふことをする。
そうしなければ心のバランスがとれないのかもしれない。
そしたら、わたしは強いから分からないということになる。

わたしなら、目的を持ったら、思いを一つに定めて、決断して、前後矛盾がないように、純粹に願い続ける。自分がしたいことを公言して、理解してもらおうとする。予想外に、理解を越えて、協力を得られたりすることも多い。

それが普通だと思って、なぜにそんなことをするのか分からなくて、なぜだと聞いていたが、答えが分かってみれば、ひどいことをする。

迷っているから、「どうして？」と聞く。
間違っているという結論がでたら、正しいことをするように求める。
しかし、できないことが分かったら、筋道をつける手助けをすることを考える。

調子のいいことを言ってないで、本音を言わなければ意味がないのは、ここまで書いてきてよく分かった。

でも、娘は平気で矛盾する主張をしてくる。

やるかもしれない。

やらないかもしれない。

分からない。

不確定な相手に対して、もし他人なら、そんな人とは付き合わない、と突き放してしまえる。

でも、娘だから、気にせずにはいられない。

分りたい気持ちもあるが、怒りも不満もあるし、分からないと思う。

「信じない」と「信じる」を同時にすることは、矛盾してくる。

「やると信じなければならぬ」という義務感と、「またやらないだろう」という不信感の間で揺れて、どちらかという不信感が勝っていた。

ここまで生命の樹について書いてきたから、信じられない悪い母親でも、そのままの姿を見せるしかないと思って、迷っていることを迷っているままだに思っていることを娘に打ち明けてみた。

反応を返さないで無視してくるかなって思ったら、意外なことに、きちんと答えてくれた。

本人も苦しいことが分かって、怒りはおさまった。

純粹に一つの態度に決める方が楽だけど、相手の矛盾を抱えきれなくて、溢れ出してしまう。子ども過ぎる。したたかさが無い。

やらない可能性を考えて対策しつつ、やる可能性を信じて、ギリギリまで待つことが、すべきことなんだと思えるようになった。

わたしは、言動を一致させようと考えすぎて、言葉に遊びがなさ過ぎて、真面目すぎるとよく言われる。

本気で思ったことを言っている分、「もう終わりだ！」と言った時は、本当に終わりで心は動かない。

ギリギリまで我慢しないで、もっと小出しに不満を言った方が、自分も周りも楽になると最近思う。

不幸なことに、言った通りに頑張る強さがあって、まず全体を考えて、最善を求めようとする

クセがあるから、完璧な防御が完成してしまう。

体は弱いけど、気は強いから、心や意志が弱い人のことが全然分からない。

昔は、「わたしは意味がないと思うけど、どうしてそうするの？ どんな意味があるの？」と聞いてしまっていた。いいのか、悪いのか、判断がつかなかった。

いろいろ勉強するうちに、意味がないと思ったことは、意味がないで正しいことを理解した。

でも、なんでそうなるかは理解できないから、未知の生き物に感じられる。

なんで他人のせいにするのか謎で仕方がなかったが、自分が原因で責任があるという事実には耐えられないから？

そういえば、うつになったロボットは、成功に対する価値が低いって記事を読んだっけ。

「できない→できた」だから、嬉しいと思う。

「できてあたりまえ」だから、できても嬉しくない。それなのに「できない」から、辛さ以外になにもない。

娘は、「できる子」と言われて育ったけど、わたしは、「駄目な子」と言われて育ったから、みんなが普通にできることができなくて、給食もいつも一人だけ残されて給食室で食べてたりして、「このこは鈍くさい」といっばい言われていたから、自己評価が低い。

だから、小さなことでも、できたら、「みんなと同じになれた」と喜べる。

上になろうとか、特別になろうとか、思わない。

これを書いているのも、なんとなく思いついてやってみようと思ったから続けているだけで、すごいことをしてやろうという気持ちはない。

自分でも考えてみて、足跡をたどって、トレースしていく感じ？

それが面白いからするのであって、他人と比べてどうこう思わない。たんなる趣味。

それでも、何もしていない人に比べたら、できるようになったことはあるわけで、「わたしができることは、みんなもできて当然」と思ったら、逆圧力をかけることになるちょっと前に理解した。

一番でも、一流でもないが、やってない人に比べたら、できることがあると自覚しないと、相手を苦しめることになる。

ライダー版のソードのページの、剣をやたらに振り回して、切りつける姿と自分が重なる。

強く正しいものは、弱い者を傷つける。

同じようにはできないのに、強い方を基準にしてしまったら、弱い方は困る。

しかし、弱い方を基準にすれば、秩序を保つことはできない。

まずは、「違う」という事実を認識する必要がある。

やらないのではなく、できない。

そう思うところから始めないと、接点が得られない。

そして、それをするのは、やれない当人ではなく、強い側なんだろう。

わたしは「力」について書き始めた時、自分を弱い側に置いていた。

実際、体が弱すぎて、寝てる時間の方が長くて、何も進まず、困っている。

でも、そういう状況にも関わらず、あきらめないでいられるわたしは、強いのだろう。

自分がやりたいことを、自分から説明して、協力を求めて、思い通りの環境を手に入れる度胸があるからといって、娘にも自己弁護を求めてはいけないのだろう。

なにを「できない」と言っているのか分からなかったが、やっとわかったよ。

=====

ララは、体は弱いけど、自分がやりたいことを言葉にして、協力を求められる強い人。

でも書いているわたしが、それを自覚してなくて、弱者として書こうとするから、幼稚な人物になるのだわ。

自分の気持ちに正直に生きているララは、弱くなんかない。

それを分かっているから、怖くて本当のことが言えない人の気持ちが分かるんだろう。

口口を見たいと思ったら、まず体が動く。

そして、正直に、理由をソフィーに話す。

決して、叱られるのが怖くて保護区に戻って、「わたしが不幸なのはソフィーのせいだ」とは言わない。

本当にやりたいことをやる。

できないことに共感しつつも、やるべきだという態度を忘れない。

そういう二重性を持った人物として描かなければ、大人らしい、占い師らしい、態度とは言えないのだろう。